

ユニリタマガジン

# UNIRITA

Magazine

vol.77

## 特集

### ビジネスの未来を創る！ ユニリタグループの新サービスをご紹介します

- 生成AIの進化とビジネス革新  
業務への活用ポイントは「セキュア」にあり
- DXでビジネスを加速！ 請求書業務の革新で業務効率を大幅に改善
- 営業組織のエースを量産！  
売上と活動量を最大化する「Growwwing」のご紹介
- SaaS型オートメーションプラットフォームのリリース

第18回「システム管理者感謝の日イベント」開催報告！

「Waha! Day 2024」開催決定！



# ビジネスの未来を創る！ ユニリタグループの新サービスをご紹介します

## 1 生成AIの進化とビジネス革新

**Waha!**  
**Transformer**<sup>®</sup>

### 業務への活用ポイントは「セキュア」にあり

生成AIは、人間の作業を支援するための先端技術として注目を集めています。この技術は、特に2010年以降に飛躍的な進展を遂げました。この期間において、深層学習(ディープラーニング)の技術が大きく進歩し、生成AIの基盤となるTransformerやGAN(生成対向ネットワーク)などが開発されました。これにより、画像生成、音声生成、文章生成など、多岐にわたる情報の生成が可能となりました。

生成AIが流行している背景には、技術的進歩と社会的需要の双方が関わっています。技術的な側面では、ディープラーニングの進化によって画像やテキスト生成の精度が飛躍的に向上しました。また、GPUの進化により、大規模言語モデル(Large Language Model:LLM)の訓練が低コストで実施できるようになり、多くの企業や研究機関が高度な生成AIを開発・実用化することが可能になりました。

一方、社会的な側面では、消費者の趣味や嗜好に合わせたコンテンツの需要や、作業の効率化を求めるビジネスニーズが増加しています。例えば、カスタマーサービスでの自動応答や、クリエイティブなデザイン作成、医療診断の補助など、多岐にわたる分野で生成AIが活用されています。これにより、生成AIは業種・業界問わず、幅広く注目を集めています。

ユニリタでも、生成AIの可能性に注目しています。特に、データ活用と情報の可視化の観点から生成AIを組み込むことで大量のデータから有用な情報を引き出し、ビジネスの意思決定を支援することが可能です。ユニリタはこれからも生成AIを活用し、ビジネスの変革を推進していくことを目指しています。

### 業務への活用例

注目を集めている生成AIですが、多くの企業で業務効率化を目指した活用事例が挙げられています。

アサヒビール様

#### 生成AIを活用し従業員の社内情報検索を効率化 : 要約・ナレッジ検索

生成AIを活用した情報検索システムを開発中であり、ビール醸造や商品開発に関する技術情報の要約と検索を効率化することを目指しています。これにより、従業員が迅速に必要な情報にアクセスでき、研究開発のスピードと効率が向上すると期待されています。

大林組様

#### 生成AIがスケッチを基に建物の複数のデザイン案を提案 : 画像生成

建物のスケッチや3Dモデルを基にして、複数の外観デザインの提案を受けることで、迅速にデザインを生成でき、設計者が手作業で行う時間のかかるプロセスを省略できます。

LINEヤフー様

#### エンジニアが生成AIを活用し1日2時間の業務効率化 : コード生成

生成AI「GitHub Copilot」を導入し、エンジニアの作業時間を1日約2時間削減しています。このAIは、必要なコードを自動生成し、開発時間を短縮する役割を果たしています。

参照元 : [https://metaversesouken.com/ai/generative\\_ai/japanese-companies/](https://metaversesouken.com/ai/generative_ai/japanese-companies/)

このように生成AIは、業種や業務を問わず、多くの企業で業務効率化の手段として活用されています。

今後も、生成AIの技術は進化し続け、多くの企業がこの技術を活用して競争力を高め、より効率的な業務運営を実現すると考えられます。

### これだけは知っておくべき! 生成AIの仕組み

#### Large Language Model : LLM

現在では、業務効率化を目的とした生成AIの活用事例や多くの生成AIのITサービスが台頭しています。これらを実現するために、欠かせない要素がLLMです。LLMは、大量のテキストデータをもとに学習された言語モデルです。特徴は、豊富な言語パターンや知識を獲得し、幅広い文脈を理解する能力を持ちます。活用例として文章の生成や質問応答、翻訳などに使用されます。代表的なLLMは、GPT(Generative Pre-trained Transformer) シリーズやGemini、Azure OpenAIなどが挙げられます。

LLMを活用する際には、学習されたデータに依存した知識で情報を出力するため、事実とは異なる情報を生成する(ハルシネーション)ことが起きます。

## 生成AIの活用における課題

多くの業務で活用できる可能性を秘めた生成AIですが、活用についていくつかの課題が存在します。

1 データ管理	顧客情報や社内機密情報を扱う際には、データの暗号化やアクセス制限を設ける必要がある
2 セキュリティリスク	生成AIが生成する情報やコンテンツには、不正アクセスやデータ漏洩のリスクを伴うため、強固なセキュリティ対策を講じる必要がある
3 情報の検証	誤情報が生成される可能性があるため、生成された情報が正確か検証する必要がある
4 バイアスの影響	生成AIは学習データに依存しています。データに恣意的な情報が反映されている際には、生成される情報も同様となるため、学習データの選定やフィルタリングに注意を払う必要がある

このように生成AIの活用を進めるにあたり、生成される情報の正確性とセキュリティ面での課題を捉えた上での活用が求められます。

例えば、生成された情報に情報元を表示する設定をすることで情報の正確性を担保できます。しかし、セキュアな活用を求める場合、ローカル環境での構築が前提となり、高額な専用ハードウェアの購入や電力コストが必要となり、生成AIの継続利用が困難になるケースもあります。

## セキュアな生成AI活用を実現する「生成AI連携オプション(β版)」のご紹介

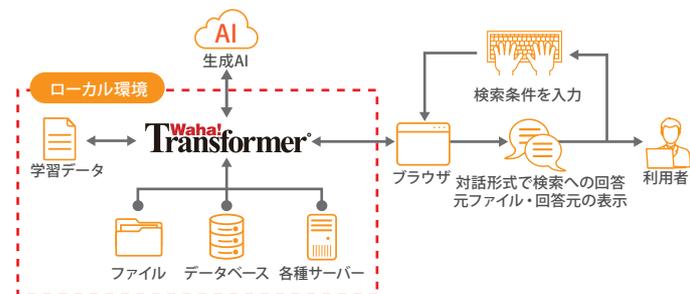
ユニタでは、このような生成AI活用の課題を解決する「Waha! Transformer」のオプション「生成AI連携オプション(β版)」をリリースしました。

通常、学習・回答精度の向上を実現させるためには、LLMまたはベクトルデータベース側へ学習データをアップロードする必要がありますが、機密性の高い社内情報を活用する際にも、生成AIへ学習させることなく、RAGの使用時もクラウドにアップロードせずセキュアな生成AIの活用を実現します。

また、ローカル環境で社内情報を保持しつつ、クラウド上の生成AIとRAGを低コストで活用することが可能です。さらに、「Waha! Transformer」のあらゆるシステムやデータソースに接続できる特長を活かし、多様なデータソースとの直接連携を可能とし、プログラミングやSQLなどの専門知識を持たずとも、短期習得できるシンプルな操作で格納されている大量データを連携・加工作業を自動化することが

できます。これにより、生成AIの学習時に必要なデータクレンジング作業が自動化され、効率的に生成AIを活用することができます。

このようにユニタの「生成AI連携オプション(β版)」は、生成AI活用の課題を克服し、企業の業務効率化とセキュア環境での情報活用の実現を支援します。



今回紹介した「生成AI連携オプション(β版)」をはじめ、データ活用のトレンドをお届けするイベント「Waha! Day 2024」を開催します。詳細は8ページでご紹介していますので、ぜひご覧ください。

### 株式会社ユニタ

ITイノベーション部  
プロダクトマーケティンググループ  
リーダー

安田 匠



## ファインチューニング・RAG

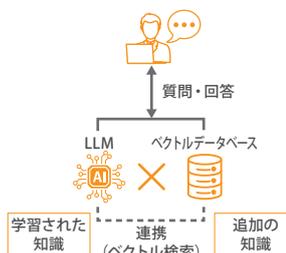
生成AIのハルシネーションを防止するために、ファインチューニングやRAGというアプローチがあります。ファインチューニングとは、LLMが持っていない知識を、追加で学習させ、LLM自体の学習精度を向上させるアプローチです。RAGは、LLMが知らない情報をベクトルデータベースに蓄積します。LLM単体の知識ではなく、追加された知識が蓄積してあるベクトルデータベースとの連携で回答の精度を向上させるアプローチです。

ファインチューニングでは、特定の業界・業務や企業独自の製品やサービスの情報を活用した応答に使われる際に有効なケースとなります。RAGの場合は、専門的かつ特定の知識が必要なケースや、迅速な情報提供が求められる状況で特に有効です。

### ファインチューニング (学習精度向上)



### RAG (LLM+ベクトルデータベース) (回答精度向上)



## 請求書業務の革新で業務効率を大幅に改善

物流・運送業界の 2024年問題と呼ばれるトラックドライバーの時間外労働規制の強化により、ドライバーの労働時間が厳しく制限されました。この影響で配送スケジュールの調整が必要となり、郵便や物流全般で遅延が生じています。さらに、郵送コストや人件費の上昇に伴い、10月1日から普通定形郵便の料金が1通あたり26円も値上げされる予定です。

このような状況から、従来の郵便に依存した請求書や通知の送付が難しくなっています。郵便の遅延により請求書の到着が遅れ、ビジネスの円滑な運営が妨げられる可能性が高まっています。さらに、切手代の値上げは、企業の経費にも大きな影響を及ぼします。

ヒューアップテクノロジーはこれらの課題を解決するために、Web請求書送付サービス「AppInvoice(アップインボイス)」の提供を開始しました。「AppInvoice」は、ヒューアップテクノロジーが提供する「The Staff-V(スタッフ・ブイ)\*1」とユニリタの「まるっと帳票クラウドサービス(以下、「まるっと帳票」)」を連携させたシステムの総称です。

このサービスにより、「The Staff-V」を使用して発行された請求書を簡単にWeb上で配信できるようになります。これにより、郵便の遅延や郵送コストの増加を避け、迅速かつ確実に請求書を送付でき、コスト削減と業務効率の向上が期待できます。

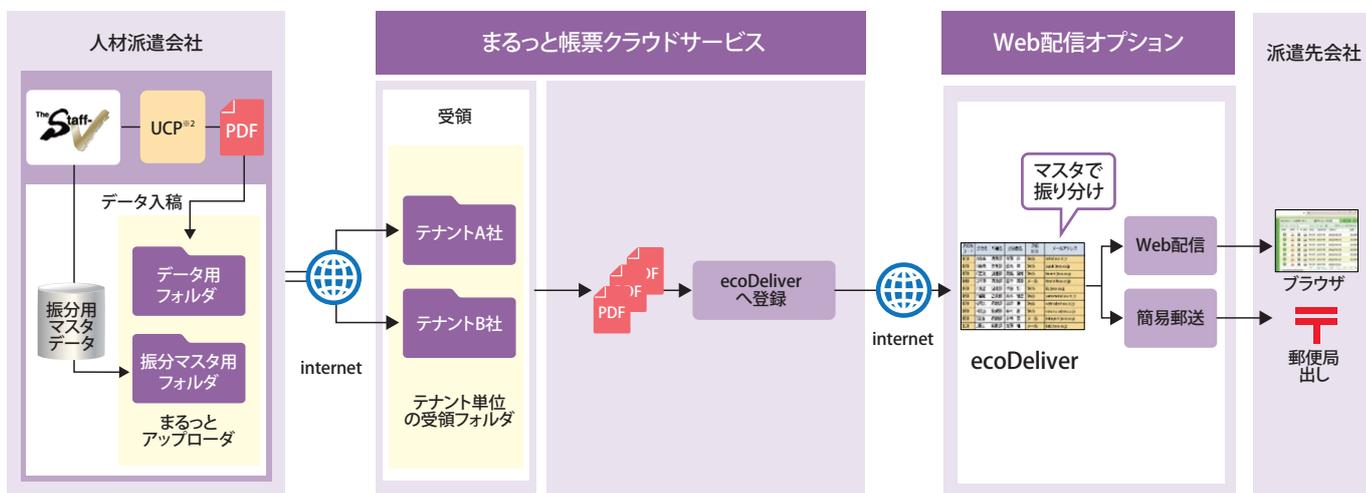
※1:「The Staff-V」は、人材ビジネス業を総合サポートする業務効率化に特化したパッケージシステムです。スタッフ管理、契約管理、勤怠管理、給与処理、請求処理など、人材派遣ビジネスに必要な管理サービスを網羅しています。

## AppInvoiceの機能

- ✓ 請求書をメールに添付して送信できる
- ✓ 請求書をWeb上で公開できる
- ✓ 請求書を一時的にダウンロードして公開できる
- ✓ 請求書を郵送できる
- ✓ 請求書をFAXで送信できる
- ✓ 承認された請求書のみを公開できる
- ✓ 請求書を7年間保存できる
- ✓ 取引先や請求金額での検索ができる

## クラウドでペーパーレス化:効率的な請求書管理システム

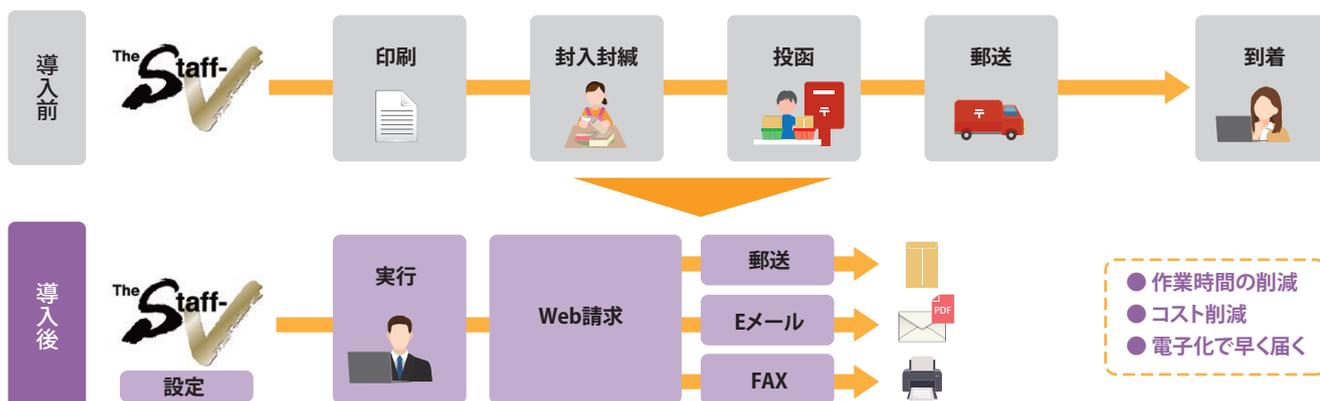
「まるっと帳票」は、帳票の出力業務をクラウドでアウトソーシングできるサービスです。このサービスを利用することで、帳票関連業務の負担を軽減し、電子配信によりペーパーレス化を実現できます。これにより、請求書の印刷や郵送コストを削減し、到着までのリードタイムを短縮する効果が期待できます。さらに、「紙」の請求書を必要とする取引先に対しても、印刷後の封入・封緘(ふうかん)作業から配送までをアウトソーシングすることで、お客様社内のリソースを有効活用することが可能になります。



※2 UNIRITA Cloud Printer Driver  
アプリケーションから印刷されたデータをPDF形式のファイルに変換し、特定フォルダに保存します。

## 請求業務の煩わしい手作業を無くし業務効率アップへ

請求書の発行作業に注目すると、印刷、折り込み、封入、封緘（ふうかん）、投函など、多くの工程が手作業で行われており、非常に手間がかかります。また、送付先が増えると封緘（ふうかん）時の誤送リスクも高まります。さらに、電子帳簿保存法などの法令遵守や、紙による運用コストの増加防止も重要な課題です。



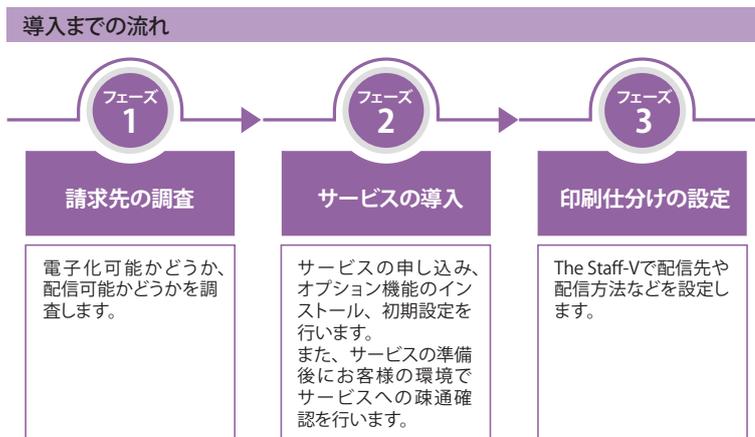
そこで「ApplInvoice」を利用することで、請求書を瞬時に届けることができ、取引先が必要な時にいつでもアクセスできる利便性を実現しました。さらに、配送業務の郵送代行オプションやFAX配信オプションも用意していますので、取引先の希望や必要に応じて柔軟に対応できます。

承認された請求書のみを公開することで、誤った情報の送付を防ぎ、信頼性を高めることができます。さらに、過去のデータを安全に保管し、複数の条件で検索できるため、電子帳簿保存法に定められた保存要件を満たしています。

## 「ApplInvoice」で簡単スタート!手軽に始めるWeb請求書送付サービス

クラウドサービスならではの利点として、現行の仕組みからの移行が手軽に行えます。取引先への配信手段を設定するだけで、Web請求書送付サービスを即座に始めることができ、お客様に負担をかけることなく請求業務を移行できます。現行の請求書発行作業では、多くの手間や誤送信のリスク、運用コストの増加が懸念されますが、「ApplInvoice」を導入することで、請求書の即時配信とデータの安全な保管が実現でき、法令遵守も確保できます。さらに、取引先の利便性を高める配送オプションも提供しています。

「ApplInvoice」は、請求業務の効率化とコスト削減に大きく貢献します。業務の改善やDXの推進にご興味のある方は、ぜひお問い合わせください。詳細な情報やデモのご案内も承っております。ご連絡をお待ちしております!



株式会社ヒューアップテクノロジー  
代表取締役 社長執行役員  
吉田 一也

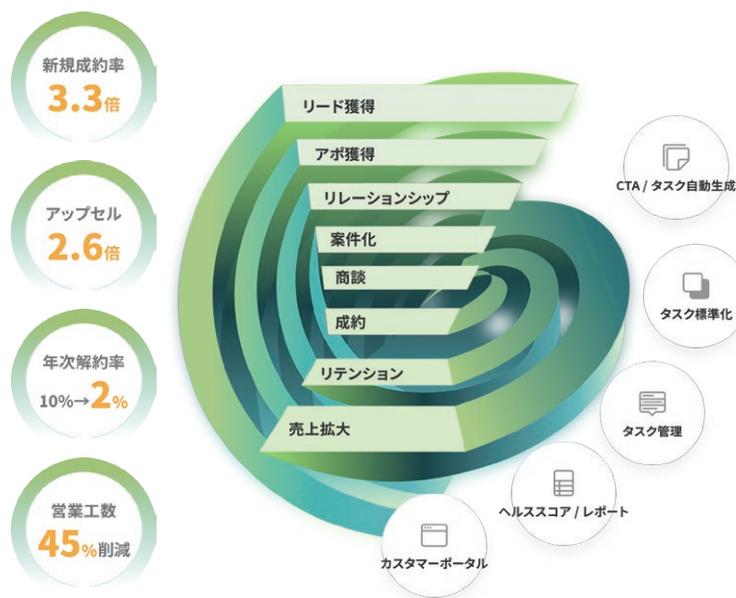


## 売上と活動量を最大化する「Growwwing」のご紹介

営業組織のパフォーマンスがバラバラで成果につながらない、活動量が上がらない、戦略/施策の優先順位が上がらない、そういった課題は組織のマネージャー以上であれば、誰もが持つ悩みではないでしょうか。顧客ニーズや時代の変化に伴い、プロダクトだけで売れる時代は終わりを迎えました。モノや情報があふれている現代において、機能や性能の違いは少なく、顧客も商材を理解している状態からスタートします。このような環境の中、営業に求められる提案は「モノ」ではなく「コト(体験価値)」が重視されるようになりました。旧来型の営業手法を改革し、変化と挑戦を受け入れる組織設計・運営が求められています。

組織力を強化するCSF(重要成功要因)は「再現性」です。再現性の低い営業組織では、営業プロセスやKPI、ガイドラインが定義されておらず、行動と結果の因果関係が不透明な状態になっています。そういった組織は営業パーソンによって活動内容や営業資料がバラバラで、営業パーソン同士のパフォーマンスにバラつきが多いのが特徴です。一方で、再現性の高い営業組織は最適化された営業プロセスやKPI、ガイドラインが定義されており、行動と結果の因果関係が明確になっています。活動の型やコンテンツが整備され、営業パーソン同士の活動量と成果が高水準で均一です。

再現性の高い営業組織へ導くカスタマーサクセスプラットフォーム「Growwwing(グロウウィング)」はユニリタで自社開発されたクラウドサービスです。自社の顧客に対するカスタマーサクセス活動で成果を創出し、そのノウハウとフレームワークをさまざまな業種業態の営業組織で活用いただいています。



### 再現性向上の第一歩は、現状のデータ化と見える化から

ノウハウが個人の暗黙知になっている、若手の育成に時間がかかっている、業務のムダ・ムリ・ムラが解消されない、こういった課題は個人の勤と経験に依存しているうちは解決には至りません。顧客の情報を一元管理し、営業メンバーの活動を記録し、可視化することでデータ起点の問題提起と改善のPDCAサイクルを回すことができます。データが可視化されることで現場の営業メンバー発信で改善の取り組みが生まれるため、ボトムアップアプローチで業務改善と最適化が進むこともメリットです。

「Growwwing」を利用して成果と活動量を最大化する、再現性のある組織作りにはチャレンジしませんか。

詳しくはこちら

<https://www.growwwing.jp/salesdx.html>



## オートメーションプラットフォームのリリース

ユニリタでは長年「A-AUTO」や「bindit」をはじめ、自動化の製品・サービスを数多くリリースしてきました。そこで培った自動化のノウハウを活かし、2024年10月に新たな自動化サービスをリリースします。

昨今のDXの流れから、システムのクラウド移行が加速し、一部の基幹システムではSaaS型のシステムの利用が始まるなど、ITシステムを取り巻く環境は大きく変化しています。今回リリースする新サービスは、オンプレミスからSaaS型システムをまたがるようなハイブリッド構成のシステムを効率良く自動化できるSaaS型オートメーションプラットフォームです。このプラットフォームは、「A-AUTO」のようにスケジュールに基づいて業務をコントロールするだけでなく、Web APIを通じて他のシステムとシームレスに連携します。また、料金モデルも処理の実行数による従量課金モデルを採用することで費用対効果の観点から自動化ソフトの導入が見送られていたシステムでもご利用が可能となります。

この新サービスの詳細は、10月に発行予定のユニリタマガジン vol.78で特集する予定です。ぜひご覧ください。



毎年恒例のイベント「システム管理者感謝の日イベント」が、今年も多くの参加者を迎え、盛況のうちに終了しました。今年で18回目を迎えた本イベントは、システム管理者の重要性を再認識し、彼らの貢献に感謝する場として、業界内外から大きな注目を集めています。

## イベントテーマとメッセージ

今回のテーマは「新たな可能性を見出す、AIとヒト、サービスマネジメントの共存」でした。AI技術の進歩は、業務効率化や迅速な対応など、多岐にわたる分野で人々の支援を実現しています。

本イベントでは、サービスマネージャーがこのAI時代に何をすべきか、どのように価値を高めてサービスを提供し続けるのかについて、深く考えるきっかけを提供しました。

基調講演では、株式会社グラフィアの石井大地氏、日揮ホールディングス株式会社の花田琢也氏、そして株式会社ユニタの藤原達哉氏が登壇し、それぞれの視点からAI技術、人材育成、サービスマネジメントについての可能性と課題を講演いただきました。

### 基調講演：

#### 経営アジェンダ化する生成 AI： 管理から投資へのステップアップ

株式会社グラフィア 代表取締役  
石井 大地 氏

### 特別講演：

#### デジタル変革と連動して共存する 人財の育成戦略とは

日揮ホールディングス株式会社  
専務執行役員 CHRO  
花田 琢也 氏

### 特別講演：

#### 「ITSM / IT サービスマネジメント」 で、ヒトが企業の未来を切り開く

株式会社ユニタ 取締役 専務執行役員  
サービスマネジメント本部長  
兼)株式会社ピーエスピーソリューションズ  
代表取締役社長  
藤原 達哉 氏

## システム管理者アワードの表彰

恒例となった「システム管理者アワード」の表彰式も、今回のイベントのハイライトの1つです。今年度は、受賞された企業の中から、NSW株式会社様、株式会社富士通ラーニングメディア様、レノボ・ジャパン合同会社様の3社にご登壇いただき、取り組んでいる内容とその成功のコツ、今後の展望について発表いただき、参加者にとって大いに参考になる内容でした。



## イベント動画を視聴いただけます!

「第18回システム管理者感謝の日」イベントの動画や、過去のイベント動画は、システム管理者の会ポータルサイトからご覧いただけます。ぜひ、見逃した方や再度内容を確認したい方はチェックしてみてください。

また、より詳細な開催報告を Web サイトにて公開しています。

動画は  
こちらへ

[https://www.sysadmingroup.jp/event\\_seminar/movie/](https://www.sysadmingroup.jp/event_seminar/movie/)  
※動画のご視聴については、事前の個人会員登録が必要となります。

開催報告  
Web ページ

[https://www.sysadmingroup.jp/seminar\\_event/thanks\\_day/report/year-2024/](https://www.sysadmingroup.jp/seminar_event/thanks_day/report/year-2024/)

参加費  
無料

11月12日(火)・15日(金)

# データ活用人材の祭典 「Waha! Day 2024」開催決定!

今年も「Waha! Day 2024」をオンラインで開催します。本イベントは、データ活用に興味をお持ちのビジネスパーソンの皆様に向けて、「Waha! = Wakuwaku と aha!体験」を提供するビジネスカンファレンス、データ活用人材の祭典です。

「Waha! Day 2024」は今回で12回目を迎える恒例のイベントで、毎年多くのビジネスパーソンが参加しています。参加者からも高い評価を頂いており、データ活用の最新トレンドや具体的な事例を通じて、新たな知見やビジネスチャンスを得る場として支持されています。

## イベント名 Waha! Day 2024

### 今こそデータ活用を ～データ連携と共創で生み出すビジネス変革～

本イベントでは、データ連携と共創によるビジネス変革を実現したお客様の事例講演や、パートナー企業の講演を予定しています。参加者の皆様がイノベーションを創出し、新たな価値を生み出すヒントが得られる内容となっています。

#### 開催日時

2024年11月12日(火)および11月15日(金)

#### 開催方式

Zoomウェビナーにてオンライン開催

#### プログラム

今年は2日間にわたり、ユーザー事例講演(株式会社アテナ様、株式会社安藤・間様、株式会社ヒューアップテクノロジーはじめ4社予定)、パートナー講演(ウイングアーク1st株式会社様はじめ2社予定)、ゲスト講演(2名予定)を実施します。

さらに、ユニリタからも「Waha! Transformer」の最新情報や、今年6月にリリースした生成AI利用の課題を克服し、企業の業務効率化と情報のセキュアな取り扱いを支援する「生成AI連携オプション(β版)」の最新情報をお届けします。

「Waha! Day 2024」では、本イベントを通じて、データの力を最大限に引き出し、ビジネスの変革を促すためのヒントやアイデアを提供します。今年も、参加者の皆様にとって有益な情報やインスピレーションを提供できることを目指しています。

ぜひ、この機会に「Waha! Day 2024」にご参加いただき、データ活用の新たな可能性を見つけてください!

イベントの詳細はこちら

<https://waha-transformer.com/>

(詳細はWebサイトにて9月上旬にご案内予定)

UNIRITA

[www.unirita.co.jp](http://www.unirita.co.jp)

## 株式会社ユニリタ

本社 〒108-6029 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟  
名古屋営業所 〒451-0045 名古屋市西区名駅3-9-37 合人社名駅3ビル

### ユニリタグループ

株式会社ヒューアップテクノロジー / 株式会社データ総研 / 備実必(上海)軟件科技有限公司 /  
株式会社ビーエスピーソリューションズ / 株式会社ユニ・トランド / 株式会社ユニリタプラス /  
株式会社無限 / 株式会社ユニリタエスアール

※ 本誌掲載の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

※ 掲載されている内容については、改善などのため予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

©2024 UNIRITA Inc. MG77-2408-800-1